

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 志木教室【児童発達支援】		
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 4日 ～ 令和 7年 10月 22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 30日 ～ 令和 7年 11月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【個性性の尊重と確かな成長支援】</p> <p>保護者様からの支援満足度は96%と非常に高く、「通って本当に良かった」という肯定的なご意見は当事業所の最大の強みです。特に個別支援計画に基づく支援では、「今必要な課題を見つけてくれた」とのお声をいただき、個々のお子様のニーズと保護者様の意向を深く理解し、的確に支援に反映しています。また、季節の行事や公共施設を利用した多様な活動プログラムを工夫し、お子様が楽しみながら発達を促せる質の高い支援を実施しています。今後はこの評価を維持し、支援の質を一層高めることが期待されます。</p>	<p>【多角的なアセスメントとチームでの計画策定】</p> <p>個別支援計画作成にあたり、標準化されたツールを用いたアセスメントに加え、日々の行動観察を含むインフォーマルな評価を組み合わせた多角的な評価を実施しています。作成時は、児童発達支援管理責任者だけでなく支援に関わる全職員がカンファレンスに参加し、意見を反映することで、お子様の最善の利益を考慮した支援目標を設定しています。これにより、職員全員が共通理解の下で、計画に沿った一貫性のある支援を提供できるチーム体制を強化しています。</p>	<p>【質の高い専門性の常時提供を目指した体制強化】</p> <p>保護者会や家族支援プログラムについて、「参加しやすい時間での開催」「案内が届いていない」とのご意見があったため、今後は保護者様が参加しやすいよう、土曜日の開催やオンラインでの情報提供を検討していきます。また、ご要望のあった「担当の先生」については、より相談しやすい体制づくりの検討を進めます。</p>
2	<p>【保護者との密な連携と共感的な支援】</p> <p>日々の支援において、保護者様との密な連携と共通理解を最重要視しています。毎回の活動後に、その日の活動内容、お子様の健康状態、発達の様子を詳細に伝え合い、96%の保護者様が状況の共通理解ができていますとご回答くださいました。さらに、職員はお子様だけでなくご家族様へも温かい声かけを意識しており、「いつも相談に乗ってくれる」「家族へも温かい声かけ」といったご意見から、保護者様が安心感をもって相談できる共感的な支援体制を確立しています。この体制は、お子様の発達を家庭と事業所が一体となって支える基盤となっています。</p>	<p>【多様なニーズに対応する柔軟な情報共有体制】</p> <p>保護者様との情報共有においては、対面での日々の連絡に加え、HUGを活用した迅速な情報伝達体制を整備しています。また、来所頻度が少ない保護者様へは、お休みの日に電話で状況を共有したり、見学の機会を設けたりと、個別の家庭状況に応じた柔軟な情報共有方法を工夫し、保護者様とのコミュニケーションの希薄化を防いでいます。</p>	<p>【保護者様の多様なニーズに応える支援体制の確立】</p> <p>保護者評価で「交流の機会がない」とのご意見があった地域との連携や移行支援の強化を目指します。就学先への情報共有や訪問は継続しつつ、幼稚園・保育園・地域の児童発達支援センターとの連携をさらに深め、より専門的な助言を得られる機会を創出します。</p>
3	<p>【個別ニーズを深く理解した専門的な支援の提供】</p> <p>「個別支援計画が適切に作成されている」の項目で高い評価をいただきました。特に、幼稚園や保育園訪問等を通じた客観的なアセスメントと、保護者様のニーズを深く汲み取った計画作成を徹底しています。子どもの特性に応じたきめ細やかな関わりは、保護者様から肯定的なご意見をいただいており、職員の高い専門意識と共感的支援の姿勢が成果に繋がっています。</p>	<p>【活動の質の継続的な改善と職員間の情報統一】</p> <p>支援プログラムの固定化を防ぐため、原則毎日異なるプログラム構成を実施しており、イベント開催も積極的に進めています。また、事前・事後のミーティングを通じて職員間で支援内容や役割分担の確認、振り返り・情報共有を徹底しています。これにより、支援の均質化と質の維持向上を図っています。PDCAサイクルに職員が広く参画し、保護者評価の結果も業務改善に繋げる振り返りミーティングを定期的の実施し、常に質の高い支援を追求しています。</p>	<p>【家族支援と移行支援プログラムの拡充】</p> <p>これまでの保護者会や個別相談に加え、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の体系的な拡充を検討していきます。特に、学齢期に応じた家族支援のノウハウを蓄積し、より専門的な情報提供や助言の機会を設けます。また、将来的な障害福祉サービス等への移行を見据えた支援内容の整備も進めていくことを目指します。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
--	--	-------------------	----------------------

1	<p>【社会的交流機会の不足】</p> <p>地域に開かれた事業運営を目指す上で、地域の施設や学校との連絡調整に時間を割くことができておらず社会的交流（公共施設など）が十分に確保できていませんでした。このことから、社会性を育む機会の提供が課題であると認識しています。</p>	<p>【地域連携体制の構築とリソース配分の不足】</p> <p>地域交流機会の著しい不足の要因として、児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議等の対応を担う一方で、常時地域の施設や学校との連絡調整に時間を割くことができていない、リソース配分の問題が挙げられます（自己評価）。職員の支援業務と両立させるための時間的・人的な余裕の確保ができていないことが要因です。</p>	<p>【地域施設との連携推進と交流イベントの定期的実施】</p> <p>地域交流の機会を確保するため、関係機関との連携担当職員を配置し、連携体制の強化を図ります。合同での交流イベントや活動機会を企画・実施します。事業所を地域に開かれた場としていくための取り組みを計画的に実行していきます。</p>
2	<p>【災害・緊急時対応マニュアルの周知不足】</p> <p>事故防止マニュアルや非常災害時の訓練は定期的に実施していますが、「保護者に周知・説明されているか」という項目に対し、「わからない」という回答が多数ありました。訓練の実施状況や安全計画の内容について、保護者様への情報発信と共有が十分に行えていない点が課題です。</p>	<p>【災害・緊急時対応マニュアルの周知不足】</p> <p>災害マニュアル等の周知は、主に契約時の書面説明や配布物によって行われていますが、その後の定期的な情報更新や、訓練内容の具体的な共有が不足していました。日々の支援報告に重点を置くため、緊急時対応に関する情報の重要性を職員側が十分に認識し、積極的に発信できていなかったことが要因です。</p>	<p>【緊急時対応に関する保護者向け情報の発信強化】</p> <p>災害マニュアルの概要、安全計画、および避難訓練の実施状況について、詳細な情報を発信していきます。また、保護者会等で緊急時対応マニュアルの内容を改めて説明する機会を設け、理解の徹底を図ります。</p>
3	<p>【個別相談・情報提供の一層の充実】</p> <p>保護者様より「担当の先生が決まっていたら相談しやすい」「HUGの連絡が一方通行に感じる」といった、よりきめ細かな個別対応や情報提供を求める声が上がっています。また、個別支援計画作成後の案内と実際の支援内容に関する認識のズレも一部で発生しており、丁寧な説明と情報共有体制の改善が求められます。</p>	<p>【個別相談・より多くの細やかな情報提供】</p> <p>職員間で支援内容や送迎担当者が日々変わる中で、情報の共有は行われているものの、保護者様へ細やかな情報提供ができていませんでした。また、保護者様が求める職員の情報や、個別支援計画の内容について、専門的な部分をわかりやすく伝えるための対話の機会や時間が十分に確保できていなかったことが、認識のズレを生む要因となりました。</p>	<p>【個別的な相談・情報共有体制の改善】</p> <p>個別支援計画作成時および支援内容の変更時には、より一層の情報共有強化（相談できる職員の明確化）を図り、支援内容と計画の関連性を丁寧に説明し、認識のすり合わせを徹底します。これにより、保護者様からの相談しやすい環境を整備します。</p>

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 志木教室【放課後等デイサービス】			
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 4日		～	令和 7年 10月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 30日		～	令和 7年 11月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【安心・安定の支援体制】</p> <p>保護者評価において、支援内容の説明、子どもの安心感、情報発信の項目で全員から「はい」をいただきました。これは、個別支援計画に基づいた一貫性のある支援を、全職員が共通理解を持って提供できている結果であると認識しております。今後も、この安心感を基盤に、支援の質の維持とさらなる向上を目指してまいります。</p>	<p>【保護者ニーズに応じた情報共有】</p> <p>保護者評価で「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解ができている」との評価をいただいています。事業所自己評価でも「保護者への報告を密に行っている」ことを強みとしています。送迎時や連絡帳を通じて日々の細かな様子を伝え合い、保護者様から「家での様子をよく聞いてくださります」という意見をいただくなど、家庭と事業所の間で一貫した支援の方針を持つための基盤を確立しています。このコミュニケーションが、保護者様の安心感に繋がっています。</p>	<p>【個別支援の「効果の可視化」と具体的な助言の強化】</p> <p>個別支援計画に基づく支援の実行に加え、今後は目標達成度や行動の変化を定量的に把握し、その結果を具体的に保護者様へ報告する仕組みを強化します（保護者意見に対応）。保護者面談時だけでなく、定期的な文書報告などを通じて、支援の効果を「可視化」し、家庭での関わり方に関するより具体的な助言と情報提供を目指します。</p>
2	<p>【個別ニーズを深く理解した専門的な支援の提供】</p> <p>「こどものことを十分に理解し、専門性のある支援が受けられている」「個別支援計画が適切に作成されている」の項目で高い評価をいただきました。特に、学校訪問等を通じた客観的なアセスメントと、保護者様のニーズを深く汲み取った計画作成を徹底しています。子どもの特性に応じたきめ細やかな関わりは、保護者様から「いつもよりさらに理解してくださりありがたい」と肯定的なご意見をいただいております。職員の高い専門意識と共感的支援の姿勢が成果に繋がっています。</p>	<p>【活動の質の継続的な改善と職員間の情報統一】</p> <p>支援プログラムの固定化を防ぐため、原則毎日異なるプログラム構成を実施しており、イベント開催も積極的に行っています。また、事前・事後のミーティングを通じて職員間で支援内容や役割分担の確認、振り返り・情報共有を徹底しています。これにより、支援の均質化と質の維持向上を図っています。PDCAサイクルに職員が広く参画し、保護者評価の結果も業務改善に繋げる振り返りミーティングを定期的に実施し、常に質の高い支援を追求しています。</p>	<p>【家族支援と移行支援プログラムの拡充】</p> <p>これまでの保護者会や個別相談に加え、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の体系的な拡充を検討していきます（自己評価の課題に対応）。特に、学齢期に応じた家族支援のノウハウを蓄積し、より専門的な情報提供や助言の機会を設けます。また、将来的な障害福祉サービス等への移行を見据えた支援内容の整備も進めていくことを目指します。</p>
3	<p>【安全性が確保された心地よい療育環境】</p> <p>活動に合わせた空間づくりを意識的に行っています。BCP策定を含む緊急時対応マニュアルや安全計画の周知や、法令以上の職員配置を維持（自己評価）し、安心・安全の確保が十分にされた中で支援を行っています。これにより、全ての子どもたちが高い安心感を持って通所できています。</p>	<p>【子どもの主体性と自己決定を尊重する活動設計】</p> <p>個別支援計画に基づき、子どもの適応行動や日々の行動観察を含むアセスメントを適切に実施しています（自己評価）。その上で、プログラムの中では、子どもが自己選択できるような工夫を凝らしています。具体的には、日々のスケジュールの中で活動を選択して実施できる時間や、各児童が話し合って次の活動を決める選択時間を設けるなど（自己評価）、自己決定をする力を育むための支援を意識的に行っています。これは子どもの通所への楽しみにも繋がっています。</p>	<p>【職員のキャリアパスに応じた専門研修の計画的実施】</p> <p>現在、外部研修を活用した学習機会を確保していますが、今後は職員の経験年数やキャリアパスに応じた、より体系的な専門研修プログラムを計画的に実施したいと考えています。特に、発達障害支援における最新の知見やアセスメント技術に関する外部研修への参加を積極的に支援し、職員一人ひとりの専門性のさらなる向上を目指します。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>【社会的交流機会の不足】</p> <p>地域に開かれた事業運営を目指す上で、地域の施設や学校との連絡調整に時間を割くことができておらず社会的交流（公共施設など）が十分に確保できていませんでした。このことから、社会性を育む機会の提供が課題であると認識しています。</p>	<p>【地域連携体制の構築とリソース配分の不足】</p> <p>地域交流機会の著しい不足の要因として、児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議等の対応を担う一方で、常時地域の施設や学校との連絡調整に時間を割くことができていない、リソース配分の問題が挙げられます（自己評価）。職員の支援業務と両立させるための時間的・人的な余裕の確保ができていないことが要因です。</p>	<p>【地域施設との連携推進と交流イベントの定期的実施】</p> <p>地域交流の機会を確保するため、関係機関との連携担当職員を配置し、連携体制の強化を図ります。合同での交流イベントや活動機会を企画・実施します。事業所を地域に開かれた場としていくための取り組みを計画的に実行していきます。</p>
2	<p>【個別支援の具体的な結果説明の不足】</p> <p>保護者様から「もう少し具体的な個別支援をお願いしたい。またその結果など何が変わったのか示してほしい」との貴重なご指摘をいただきました。支援内容自体は計画に沿って適切に行われていますが、支援の過程で生じた子どもの変化や、それに対するアプローチの有効性を数値や具体的なエピソードで伝える点が不足しており、保護者様との共通理解を深める上で改善が必要な課題です。</p>	<p>【情報共有の手法不足】</p> <p>個別支援の具体的な結果説明の不足の要因は、日々の支援記録を徹底して行っているものの、その記録を保護者様へお伝えする際に、定性的・抽象的な表現に留まってしまう問題が考えられます。支援の目標達成度の細やかな共有が不足していることも、具体的な変化を伝えきれない要因となっています。</p>	<p>【個別支援の目標達成度を可視化する報告ツールの提供】</p> <p>個別支援の具体的な結果を保護者様へお伝えするため、数値や図表を活用した目標達成度報告ツールなどを検討します。これにより、子どもの変化や支援の効果を客観的に「見える化」し、保護者様と職員との共通認識を深めます。また、面談時における具体的な助言の質を向上させるための職員研修も実施します。</p>
3	<p>【家族支援・移行支援における個別対応の必要性】</p> <p>保護者会や個別面談の実施は行っているものの、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や、きょうだい支援の充実、また、将来的な移行支援に関する情報提供や継続的な助言について、十分に行き届いていない可能性があります。特に、子育ての悩みや課題への個別的な助言について「どちらともいえない」が一定数見られ、より質の高い家族支援体制の構築が求められます。</p>	<p>【家族支援・移行支援に関するノウハウ不足と体系化の遅れ】</p> <p>家族支援・移行支援における個別的かつ継続的な対応の必要性の要因として、職員全員が家族支援に関する専門的な知識を体系的に習得する機会が不足していることが挙げられます。そのため、保護者会という全体的な情報提供に偏り、個別の悩みに特化した、専門的な助言や継続的なプログラム提供に至っていない状況があります。移行支援についても、情報提供は行っているものの、個別のケースに応じたシームレスな支援に繋げるためのノウハウ蓄積が遅れています。</p>	<p>【家族支援・移行支援に特化したプログラムの整備と提供】</p> <p>保護者会とは別に、子育ての悩みや課題に特化した家族支援プログラムを実施します。また、学齢期に応じた移行支援の情報提供資料を作成し、該当する保護者様へ個別に提供します。これらの取り組みを通じて、保護者様への助言の機会を拡充し、切れ目のない支援体制の構築を実現します。</p>